クアラルンプール日本人学校
特別支援教育だより
令和８年度　第２号
特別支援教育部

すべての子どもたちが学びやすい学校へ

本校での支援実態

本校はすべての児童生徒が学びやすい環境を目指しており、特別支援教育だより第１号でお示しした通りに、一次支援と二次支援の充実に向けて取り組んでいます。一次支援としては、教室前面の掲示を最低限にすること、児童生徒に向けた配付物には視認性の高いＵＤ系フォントを使用すること、黒板のチョークの色分けを明確にすること、教師からの指示は具体的かつ明確にすること、Google Classroom 他のＩＣＴツールを活用することなどを大切にしています。

二次支援として行っている教育的（合理的）配慮の実例はまだ多くありませんが、文部科学省や都道府県教育委員会などからは下の表のようなものが例として挙げられています。ただし、これらはあくまで文部科学省などが例示しているものであり、本校でこれらが必ずしも実施できるものだとはお約束できません。本校での合教育的（合理的）配慮の実施には別途審議が必要となります。

対　象	配慮の例	期待される効果
漢字、日本語の習得不十分	板書、配布物などへのルビ振り	理解できる範囲が広がり、サポートが不要な場面が増える。
聴覚過敏	イヤーマフ、ノイズキャンセラー等の使用	不要な音を減らすことで、授業への集中が可能となる。
色覚異常	板書、資料等で赤色の使用を控える	認知にかける負担が減り、授業への集中が可能となる。
四肢の運動機能等による書字の困難	タブレット端末などによる板書等の写真撮影	帰宅後等に時間をかけてノートテイクすることが可能となり、適切な学習効果に繋がる。
	テストの別室受験及び時間延長	公正で適切な学力を知ることが可能となる。

特別支援学級と通級支援教室

本校には軽度知的障害特別支援学級として「なかよし」、ＬＤ等の発達障害通級指導教室として「まなび」を設置しています。

軽度知的障害特別支援学級「なかよし」では、軽度の知的な遅れがあるために、当該学年の教育課程を学習することでは十分な成長が難しい児童生徒を対象として、個々の発達段階に応じた教育課程を編成しています。定員は、小学部と中学部を合わせて４名としています。

発達障害通級指導教室「まなび」では、知的には遅れはないが、認知のアンバランス、行動の制御、社会性の欠如等、通常の学級では力を発揮しきれない児童生徒について、通常の学級に在籍しながら、通級指導教室で週１時間程度から学習することができます。ここでは教科の補充学習をするのではなく、学び方を学習する自立活動を主に行っています。「なかよし」には定員がありますが、「まなび」には定員を設けていません。可能な範囲で受け入れを行っていますが、その際には、面談や客観的な資料（診察や検査の結果など）をもとに校内で審議を行います。

本校での特別支援教育をご希望の際には、まずは担任、問い合わせ窓口などにご連絡ください。